

奈良

いのちの電話

2022

春

第388号

特集

性の多様性を知る

～相談に必要な基礎知識と対応ポイント～

中田 ひとみ 氏

社会福祉法人 奈良いのちの電話協会

事務局／〒631-0816 奈良市西大寺本町8-27



TEL : 0742-35-0500

FAX : 0742-35-0533

e-mail : nid@nara-inochi.jp

高山茶釜

高山竹林園 所蔵



茶の泡に
春夕焼の
とどまらず

加藤秋郎

風 鐸



うららかな陽光を浴びて、桜並木が満開になり、美しく咲き競っています。草花が一斉に萌え出づる「春」。その名の語源は諸説ありますが、木の芽が大きく膨らんだ状態を表す「張る」からきたとも言われます。矢を放つとき、弓の弦を目一杯「張る」とも重なります。

高校時代、私は弓道部員として毎日練習に励みました。そして練習後は、必ず仲間と共に道具や道場を丁寧に整えました。武道に限らずいろいろなスポーツに

は道具があり、汗や涙を流す場所があるからこそ、自分が鍛えられます。だから練習後には使った道具をふいたり磨いたり、使った場を掃き清めて整理整頓し、お礼の気持ちを表します。また、指導いただいた先生や先輩、仲間がいるからこそ、技術を磨き心を鍛えることができたのでしょう。今思えば、そんな日々の営みは、私を成長させてくれた人や物への感謝や思いやりの気持ちを表す行いであつたと思います。部活動は私に、感謝する心の大切さを教えてくれました。

誰もが、感謝することの大切さをどこかで身に付けて成長していきます。でもその気持ちを、日常生活では上手く表現

できずにいることもしばしば。例えば日々の挨拶の中で、「ありがとう」「すみません」という言葉が自然に出てくるように、感謝の気持ちとその基となる相手を尊ぶ心を伝え合うことができれば、もっともっと日々気持ちよく暮らせるはずです。

こうしたすてきな心情は、共に暮らす中で、気づかないうちに芽生えてくるものです。春になり、誰が植えたわけでもないのに芽を張り出した多くの草花が、空に向かって伸びていく姿を見て、ふとそんな思いが浮かんできました。（祥）

性の多様性を知る

～相談に必要な基礎知識と対応ポイント～

性と生を考える会 中田ひとみ 氏



プロフィール

中田 ひとみ 氏

2000年、性と生を考える会設立、代表。
訪問看護師の仕事をしなが、性の多様性に関する講座や冊子の制作、自治体への要望、相談対応など、奈良県における性的マイノリティの権利擁護のための活動をしている。

1月30日に専門講座が開かれ、「性の多様性」についてのお話があった。私たちはあらゆる人権侵害をなくし、互いの多様性を認め合う社会を目指しているが、現在奈良県では39の市区町村の中で4市区町村にパートナーシップ制度が導入されているにすぎない。電話相談の中には性的マイノリティの方からのものもあり、性の多様性についての理解を深め、対応のポイントを学ぶことは大切なことである。奈良県で活動されている中田ひとみ氏のお話の概要をまとめた。

レインボーフラッグ

レインボーフラッグという旗があります。性の多様性を象徴する6色の虹の旗です。虹といえば、日本では7色ですが、ドイツでは虹は5色、世界には2色や3色とする所もあります。人は同じものを見ても同じように感じるとは限らない、知っていることが全てではない、正解は1つとは限らない、大切なことは、自分を基準にしないということです。今回、性の多様性を知ること、相談の際のヒントになればと思います。

性のありようは多様

性の要素はたくさんあります。①体（身体的な特徴）②性自認（自身の性別認識）③性別表現（見た目）④性的指向（好きになる対象）。多くの人は体と心が一致して異性愛者であることがあたりまえだと思っていますが、性のありようは多様です。体と異なる認識を持つ人、男性でも女性でもないと思う人、同性を好きになる人、好きになる対象の性別にこだわらない人、自分らしいと思う表現もさまざまです。男性や女性の中にもいろいろな人がいるということです。マイノリティ（少数者）かどうかに関係なく、すべての性がオンリーワンなのです。

体と心（性自認）が一致しないことなどから「性同一性障害」や「性別違和」などの診断を受けた場合は、治療としてホルモン投与や性別適合手術が可能となります。診断や手術を望まない人もいます。日本では戸籍の変更条件が難しいので、外見や性自認と戸籍の性別が異なる状態で生活している人もたくさんいます。

また、LGBTQなどの言葉は、第三者が判断するものではなく、その人のアイデンティティが尊重されます。

性的指向の多様性

	L レズビアン	G ゲイ	B バイセクシュアル
			
異性に魅かれる人	同性に魅かれる女性	同性に魅かれる男性	両性に魅かれる人
異性愛者	同性愛者		両性愛者

性自認・性別表現の多様性

シスジェンダー	T トランスジェンダー		性同一性障害 性別違和
			
体と性自認が一致する人	MTF トランス女性	FTM トランス男性	疾患名

※トランスジェンダー：出生時とは異なる性別で生きる人

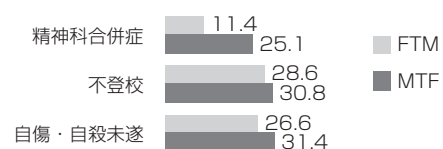
LGBT だけではない多様なありよう

Q クエスチョニング	X ジェンダー	CD クロスドレッサー
		
わからない 決めない	男か女かどうか ではない認識	異性の姿をする人

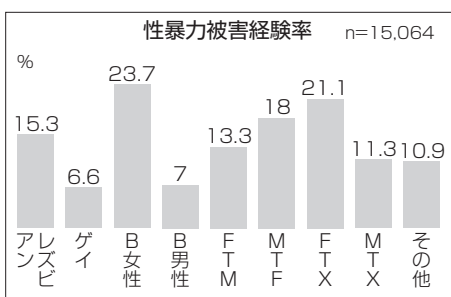
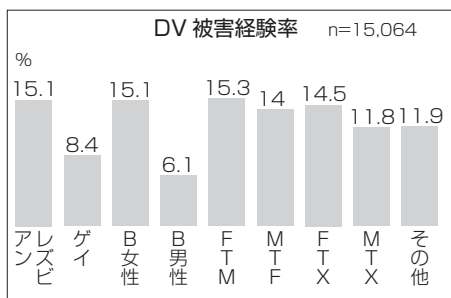
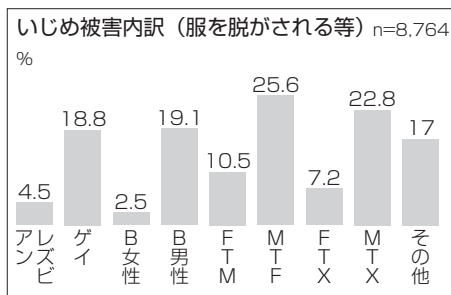
性的少数者の悩み

性的マイノリティの人は多くの困りごとや悩みを抱えています。肯定的な情報がないために、人と違うことを受け入れられず、自分は変だと思って育ちます。否定的な環境の中で、差別に対して怒れない、性的マイノリティの人が笑われたりするのを見て傷つく、将来への希望が持たにくい、親不孝だと思ふ人もいます。自分のことを言えないので、助けを求めにくく、友人と距離をとったり、地元では暮らしにくいと思う人もいます。性的マイノリティ対象の調査（2016年）では、小中高で不登校の経験が21.1%、い

性同一性障害における種々の問題（％）



（中塚幹也、「学校の中の性別違和感を持つ子ども」より）



(日高庸晴：REACH Online 2016 for Sexual Minorities)

じめ被害の経験が58.2%、DV被害や性暴力被害の経験率が高い傾向があります。トランスジェンダーの人たちには、制服やトイレ、身分証明を求められるといった困りごと、同性カップルの場合、結婚が認められないため、保障や福利厚生を受けられない、入居時や救急の時に家族扱いされないなどの不利益があります。

性的マイノリティが直面する課題をまとめると、①自分の思う性別で暮らせない ②異性愛

前提で扱われる ③自己否定や生きづらさ（不便や不平等）

④アクセス困難（助けを求めにくい）→孤立 ⑤差別や偏見、いじめや暴力の被害 ⑥生活上の不便や不利益 などにあります。

電話で対応するときに

まずは決めつけない姿勢が大切です。声や話し方で性別を決めつけない。異性愛者前提で話をしない。言葉も工夫する、たとえば「彼・彼女」ではなく「恋人・つきあっている人」、「主人・奥さん」ではなく「おつれあい・パートナー」、「お父さん・お母さん」ではなく「ご家族・保護者」などです。

また、その人の性のありようだけにとらわれず、何を聴いてほしくて電話しているのか、何に困っているのかということに焦点をあて、包括的な視点で聴きましょう。自分の中で理解できないと思うことがあっても、その人を尊重するという姿勢が大切です。

わからないことは相手に尋ねましょう。ただし興味本位や否定的に聞こえないよう、また、当事者に知識があるとは限らないので、注意が必要です。

「あたりまえ」や「ふつう」は一人ひとりみんな違うのです。「男性」「女性」「家族」「性」などに対して、こうあるべきという固定概念ではなく、多様性を尊重した対応が求められるでしょう。(M)

多様性の時代に

つなぐ 8

～ 一期一会 ～

奈良トヨタ株式会社 代表取締役社長 菊池 攻

一昔前、つながるという言葉を聞くと、人とつながる、道がつながる、電話がつながるなどを思い浮かべましたが、今は、Wi-Fiがつながる、SNSでつながるなどと使われることも多いようで、時代の変化を感じます。

私は毎年必ず新入社員に「一期一会」を大切にするように伝えていきます。

この「一期一会」のご縁、一生に一回しか会う機会がないような不思議な縁や出会いを大切にし、そのつながりを広げて自分の成長につなげて欲しいという思いからです。それは当社の企業理念「すべてのご縁を生かして地域社会に貢献する」にも通じています。

しかしデジタル社会の進展やコロナ禍で、これまでのように人と「会い」、つながりを広げ深めていくことは難しいかもしれません。コロナ禍は人々の意識や社会様式を大きく変えました。デジタル社会、非接触型の社会はアフターコロナでも加速していくでしょう。

話は変わりますが、当社では旧車のレストア（復元）を実施し、その車両を当社の自動車博物館「まほろばミュージアム」に展示しています。レストア作業は、ベテラン整備士と若い整備士の混成チームで、動かなくなった古い名車を整備士がエンジンやパーツ、内外装まで含めて当時の新車のように復元していきます。電気自動車が登場し、コンピュータ制御の車が主流の中、あえて旧車を老若男女の整備士が、クルマへの想いや熟練の技術を伝承しながら一緒に復元作業をしています。次世代へ想いや技術をつなげる場となっています。

ほとんどのことがスマホや非接触で完結するデジタル社会において、人と人とのつながりはどうあるべきなのでしょう。新たなデジタルツールを活用し人と出会い、つながりを作っていくことも必要でしょう。同時にレストアの例のように、昔ながらの対面やコミュニケーションを大切に、絆を深め、先人からの想いや技術を次世代へつなげていくことも大切ではないでしょうか。

変化のスピードが速く情報やツールが溢れる社会で、性格や適性、おかれている状況など、それぞれにあった方法を選択して、人との出会いやつながりを作っていけばいいのではないのでしょうか。

これからどのような方法であっても、「一期一会」、人と人との出会いとつながりを大切に、人と人が支え合う社会であり続けることを願います。